

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス日本語Ⅳ		（ NGH23G ）
講義名（コード）	ビジネス資格対策Ⅱ		（ NGB23AX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	グローバル人材として世界で活躍できるように知識を身につける
全体の内容と概要	言語、マナーなど、社会人として身につけておきたいことについて学習していく
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	第6章 クレーム対応について学習する1	クレーム発生のお客様心理、グッドマンの法則、基本の流れについて理解できる
2	第6章 クレーム対応について学習する2	傾聴と共感について理解できる 振り返り問題
3	第7章 異文化適応力を学習する1	知・異文化3つのステップ、言語・非言語コミュニケーション、異文化コミュニケーション、日本のコミュニケーションの特徴を理解できる
4	第7章 異文化適応力を学習する2	日本人が大切にしていることや考え、和の精神、言葉づかいは心づかい、日本のおもてなしについて理解できる
5	第7章 異文化適応力を学習する3	日本の贈り物のマナー、冠婚葬祭、各国のあいさつ、各国の文化・風習・タブーについて理解できる
6	第7章 異文化適応力を学習する4	ジェスチャーを理解できる 振り返り問題1～4
7	第8章 不快を与えないための食事のマナーを学習する1	食事の基本マナー、和食のマナー、洋食のマナー 1・2・3について理解できる
8	第8章 不快を与えないための食事のマナーを学習する2	パーティーもマナー、お酒のマナーを理解できる 振り返り問題1～4
9	国際プロトコールを確認する1	国際プロトコール1・2、紹介とあいさつ、好ましい話題、好ましくない話題、国旗の掲揚について理解できる
10	国際プロトコールを確認する2	贈り物のマナー、自国の文化、日本の文化を紹介する、について理解できる
11	第10章 感動品質のサービスを学習する1	顧客満足度向上、サービスのプロフェッショナル、会話をする力をつけるを理解できる
12	第10章 感動品質のサービスを学習する2	VIP対応について理解できる 振り返り問題1～3
13	第11章 ご高齢や障害のある方への対応について学習する	ご高齢の方への接し方、車いすをご利用の方への接し方、聴覚障害・言語障害をお持ちの方への接し方について理解できる
14	まとめ	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	グローバル人材ビジネス実務検定 公式テキスト
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス翻訳Ⅱ		（NKT23F）
講義名（コード）	ビジネス翻訳ⅡA		（NKT23FA）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	木村 みゆき	時間数	30
成績評価教員	木村 みゆき	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネスで使われるメール・インフォメーション等を正確に理解し翻訳できるようにする。簡単なメールを英語で書けるようにする。
全体の内容と概要	TOEICのパート6・7の問題に取り組みながら、本文を日本語に書き換えてみる。英語でメールを書くために必要な語彙、形式を紹介する
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	従業員に宛てたお知らせの文章・送り状を理解できる	お知らせの文を翻訳する。Invoiceの見方・書き方を学ぶ
2	ホテルのウェブページ・レビューが理解できる	レビューのサマリーを日本語で書いてみる
3	電話のメッセージの読み方・書き方を理解できる	メッセージの書き方を学び、実際にメモをとってみる
4	カメラの批評のweb ページを理解できる	それぞれのカメラの評価をまとめて書いてみる
5	割引広告・メールサーバー停止のお知らせを翻訳できる	日本語に翻訳してみる
6	meetingのアジェンダの読み方。作り方を理解できる	meetingのagendaを作り、staffにそれを知らせるメールを作成する
7	従業員に向けたstrategic planのe-mailを翻訳できる	e-mailを翻訳する。
8	車のディーラーからのお知らせとアンケートを理解できる	お知らせの書き方、アンケートの作り方を学ぶ
9	人事部からの職位に関するレターを翻訳できる	日本語に翻訳する
10	ツアーのitineraryを英文で書ける	簡単なツアー日程を英語で書いてみる
11	会議の議事録を翻訳できる	会議の議事録を翻訳してみる
12	オフィススペースのレンタル広告を理解し返信できる	オフィスのレンタル広告をみてそれに対する返信を書いてみる
13	まとめ	復習・テスト対策
14	テスト	
15	テストFB	テストの解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	公式TOEIC Listening & Reading
参考文献・資料等	ビジネスで1番よく使う英語E メール
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス翻訳Ⅱ		（ NKT23F ）
講義名（コード）	ビジネス翻訳ⅡB		（ NKT23FB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1/2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	高野 恵	時間数	30
成績評価教員	高野 恵	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネス英語特有の表現、語彙を習得し、ビジネスメールなどの翻訳ができるようになる。
全体の内容と概要	相手や場面に応じた言葉（フォーマル、セミフォーマル、カジュアル）の使い分けができるように語彙力と表現力を身につける。
授業時間外の学修	Unitごと習うビジネス特有の表現・語彙の復習をする。
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ビジネスフレーズを瞬間英訳できるようになる	ビジネスフレーズを学び瞬間英訳トレーニングを行う。
2	「品物がとどかない」クレームメールを理解できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
3	「品物が不足している」メールを理解できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
4	「品物が破損・不良品」メールを理解できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
5	「出荷の遅れを謝罪する」メールを理解できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
6	「品違いを謝罪する」メールを理解できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
7	【Unit9】招待できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
8	【Unit10】予約できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
9	【Unit11】キャンセルと予定変更ができるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
10	【Unit12】場所を説明できるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
11	日常業務に関するメールのやり取りができるようになる	ビジネスメールの特有表現を習得し、訳し方書き方を学ぶ。
12	総復習①	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
13	総復習②	間違えやすい項目、定着していない項目を中心に復習する。
14	期末テスト	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	Go Global
参考文献・資料等	入門ビジネス英語、書けるEメール・ライティング、英文ビジネスEメール文例集
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	マーケティング実践Ⅱ		（ NGB22F ）
講義名（コード）	マーケティング実践Ⅱ		（ NGB22FX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	1
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	身近な業界や企業からマーケティングを考えてみる。 そしてマーケティングを実践的に使えるようにする
全体の内容と概要	①マーケティング的思考をしっかりと身に付け、ビジネス視野を広げる ②理解を深めるためにケーススタディやワークショップの時間を設ける
授業時間外の学修	日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	後期の授業内容を理解できる	後期の授業テーマと流れの解説
2	ニューマーケティングポイントを理解できる	マーケティングはモノ消費とコト消費へ。そして…
3	アフター・コロナのマーケティングを理解できる	今後のマーケティングはどのように変わるか
4	ローカルマーケティングを理解できる	商店街支援事例を通して、地域マーケティングを考察する
5	デジタルマーケティングのトレンドを理解できる	新しいマーケティングを体感する
6	マーケティング戦略を理解できる	差別化戦略、価格戦略を業種別に考察する
7	学んだことをアウトプットできる	ワークショップ
8	学んだことをアウトプットできる	情報収集を実施
9	学んだことをアウトプットできる	商品開発を考察する
10	学んだことをアウトプットできる	SDGsの取り組みを考察する
11	学んだことをアウトプットできる	プロモーション戦略を立案
12	学んだことをアウトプットできる	マーケティング戦略をまとめる
13	学んだことを発表できる	プレゼンテーション
14	学んだことを発表できる	プレゼンテーション
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	資料配布
参考文献・資料等	日々のニュースソース
備考	なし

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2024年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	会計財務Ⅱ		（ NGB22U ）
講義名（コード）	会計財務Ⅱ		（ NGB22UX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	前期に学習した簿記の基礎知識をふまえて、日商簿記3級検定受験を目標に企業の取引のしくみ、記帳のしくみを学習していきます
全体の内容と概要	テキストに沿って1つ1つの会計処理方法を覚え、模擬問題を練習し検定対策をしていきます
授業時間外の学修	前期の内容のほかに新しい勘定科目や書式、計算問題が出てきます しっかり復習して覚えていきましょう
履修上の注意事項等	3級検定日は6月9日・11月17日・2月23日の3回ですので受験日に合わせて対策を進めましょう 初級の検定は学校でいつでも受けられます

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	株式会社会計を理解できる	株式会社とは何か・資本金・繰越利益剰余金 税金・個人会社の資本金
2	決算手続を理解し 試算表を作成できる	決算と決算手続・試算表の作成方法
3	株式会社の税金を理解し 記帳できる	株式会社の税金の種類 消費税について
4	決算整理の意味を理解し 手続を理解する	決算整理① 棚卸表・現金過不足の整理・当座貸越の振替
5	決算整理に必要な計算が できる	決算整理② 貸倒れの見積もり・固定資産の減価償却 売上原価の計算・決算整理事項計算例
6	収益・費用を整理し 棚卸表を作成できる	決算整理③ 費用の前払い・収益の前受 費用の未払い・収益の未収、貯蔵品の棚卸し
7	主要簿の締め切りができる	帳簿の締め切り 仕訳帳と総勘定元帳の締め切り
8	精算表を作成することができる	精算表とは・精算表の作成
9	決算整理後の財務諸表を 作成することができる	貸借対照表、損益計算書作成上の注意・作成
10	復習	総合演習 模擬問題を解答してテスト前練習
11	復習	総合演習 模擬問題を解答してテスト前練習
12	復習	総合演習 模擬問題を解答してテスト前練習
13	復習	総合演習 模擬問題を解答してテスト前練習
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	留学生のための簿記3級 ワークブック
参考文献・資料等	各問題集より練習問題・模擬問題練習プログラム
備考	レベルに応じて日商簿記初級・3級受験を考え進めていきます

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	経営戦略Ⅱ		（ NGB22H ）
講義名（コード）	経営戦略Ⅱ		（ NGB22HX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	今野 篤	時間数	30
成績評価教員	今野 篤	講義期間	秋学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業コンサルタント実務経験、（株）経営教育研究所 代表	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	人と組織を軸ににして経営戦略を考える
全体の内容と概要	①企業を牽引するリーダーの資質、スキルを学ぶ ②これらの組織の形とは
授業時間外の学修	日頃から企業のリーダーがどんな判断をしているのかアンテナを張っておく
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	リーダーの特性を理解できる	起業家、政治家からリーダーシップ像を考えてみる
2	リーダーシップを理解できる	自分のリーダーシップはどこにあるのか考察してみる
3	リーダーに必要な資質を理解できる	協調力、判断力、傾聴力などリーダーシップに必要なスキルを磨くためには
4	コミュニケーションスキルを理解できる	様々なコミュニケーションスキルを体系別に学ぶ
5	コミュニケーションスキルを理解できる	傾聴力の大切さを体感する
6	コミュニケーションスキルを理解できる	営業コミュニケーションスキルを高める
7	チームワークを理解できる	協調性とは。チームゲームを通して学ぶ
8	チームワークを理解できる	同上
9	組織について理解を深める	組織とは何か。歴史を振り返る
10	組織について理解を深める	新しい組織（チーム）の形を学ぶ
11	組織について理解を深める	ケーススタディ
12	学んだことをアウトプットできる	まとめのワークショップ
13	学んだことをアウトプットできる	同上
14	学んだことを発表できる	プレゼンテーション
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	資料配布
参考文献・資料等	日々のニュースソース
備考	担当教員は経営コンサルタントの実務経験を活かし、経営戦略・人事労務管理・リーダーシップ論などの経営基本知識をケーススタディを用いて指導を行う

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	経済学Ⅱ		（ NGB22J ）
講義名（コード）	経済学Ⅱ		（ NGB22JX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	授業の目的：価格が資源の配分にどのように役割を果たすかを学ぶ 到達目標：供給と需要の変化が価格に与える影響を分析できるようになること
全体の内容と概要	市場経済の基本概念から応用を学び、実世界の事例研究に至るまで理解を深める
授業時間外の学修	与えられた課題に関するレポート作成や事例研究
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で実施するため、ヒヤリングできる程度の日本語語学力が必要 グループワークへの積極的な参加・初歩の数学的なグラフ等の理解が必要

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	マクロ経済の均衡を理解する	総需要と総供給の分析を実例を交えて検討
2	インフレーションと失業を理解する	インフレーションと失業の関係を各国比較
3	経済成長と発展を理解する	経済成長の要因と経済発展の課題をグループワークで討論
4	国際貿易と為替レート	貿易の利益と為替レートの決定方法をわかりやすく解説
5	経済統合とグローバリゼーションを理解する	経済統合の形態とグローバリゼーションの影響を具体例を示してグループワークで討論
6	開発経済学の基礎を理解する	発展途上国の経済問題を具体的に解説
7	環境経済学と持続可能性を理解する	環境問題と経済活動の関係を具体例を挙げグループ討論
8	ミクロ経済学の応用	市場の失敗と政府の介入について市民生活への影響をわかりやすく解説
9	マクロ経済学の応用	経済政策の評価と現代の課題を生徒自身の問題として捉えさせる
10	経済思想の歴史を理解する	アダム・スミスから現代経済学までをわかりやすく解説
11	経済指標の読み方を理解する	GDP、失業率などの経済指標の初歩的な理解
12	貧困と福祉を理解する	社会的不平等と各国の福祉政策を調べさせる
13	経済学の総まとめと現代の経済問題	コースの振り返りと現代における経済の課題
14	テスト	テスト
15	テストフィードバック	テストフィードバック 出題問題の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	パワーポイント等による資料提供
参考文献・資料等	よくわかる経済学入門・各国統計等
備考	授業ではできるだけ分かり易い具体例等を示し、生徒自身に考えさせる授業とする（グループワークなど）

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	世界情勢Ⅱ	（ NGB22L ）	
講義名（コード）	世界情勢Ⅱ	（ NGB22LX ）	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	世界には様々な国や文化があることを理解し国際感覚を身につけることを目指す
全体の内容と概要	毎回各国の情勢について学習していく
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
---	------	------

1	世界の州と国を見よう8	ヨーロッパ編①イギリス②フランス の世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
2	世界の州と国を見よう9	ヨーロッパ編③スペイン④ポルトガル の世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
3	世界の州と国を見よう10	ヨーロッパ編⑤イタリア⑥ギリシャ の世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
4	世界の州と国を見よう11	ヨーロッパ編⑦スイス⑧オランダ の世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
5	世界の州と国を見よう12	ヨーロッパ編⑦ドイツ⑧ロシアの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
6	世界の州と国を見よう13	北アメリカ編①アメリカの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
7	世界の州と国を見よう14	北アメリカ編②カナダ③メキシコの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
8	世界の州と国を見よう15	南アメリカ編①ブラジル②アルゼンチンの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
9	世界の州と国を見よう16	南アメリカ編③ペルー④チリの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
10	世界の州と国を見よう17	アフリカ編①南アフリカ②エジプトの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
11	世界の州と国を見よう18	オセアニア編①オーストラリア②ニュージーランドの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
12	世界の州と国を見よう19	アフリカ編①南アフリカ②エジプトの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
13	世界の州と国を見よう20	オセアニア編①オーストラリア②ニュージーランドの世界遺産、グルメ、建造物について理解できる
14	まとめ	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	地図でよくわかる世界の国大百科
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	卒業研究		（ NKT22Q ）
講義名（コード）	卒業研究B		（ NKT22QB ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	1
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ここまでの学習の集大成を、自分自身で振り返り、自分だけでなく人にも伝えられるようにわかりやすい説明とプレゼンテーションを行うことができる
全体の内容と概要	今まで学習したことを振り返り、さらにそれについて知識を深めたり、PPTを使用しプレゼンテーション練習も行う。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	特になし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	今まで学習した内容を振り返り、語彙を確認することができる	今までに学習した国際問題など、経済や政治問題に頻出する語彙を確認する
2	マインドマップを作成できる	今まで学習したことをもとにマインドマップを作成する
3	今まで学習した内容を振り返り、さらに知識を深められる①	今まで学習してきたことをもとに一番興味深いものをピックアップする
4	今まで学習した内容を振り返り、さらに知識を深められる②	今まで学習してきたことをもとに一番興味深いものについてPPTを作成
5	今まで学習した内容を振り返り、さらに知識を深められる③	今まで学習してきたことをもとに一番興味深いものについてPPTを作成
6	自分の考えを人に伝えることができる	クラス内発表
7	卒業発表のため今まで学習した知識を更に深く考察することができる①	卒業発表にふさわしい発表テーマについて考える
8	卒業発表のため今まで学習した知識を更に深く考察することができる②	テーマをもとにマインドマップを作成する
9	自分の言葉で表現することができる①	スピーチ原稿を作成する
10	自分の言葉で表現することができる②	スピーチ原稿をもとに話す練習をするPPTを作成
11	卒業発表を意識しスピーチすることができる①	PPTを作成
12	卒業発表を意識しスピーチすることができる②	PPTを作成
13	期末テスト	クラス内発表 FB
14	期末テスト	クラス内発表 FB
15	期末テスト	クラス内発表 FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅣ		（ NKT22N ）
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅣ A		（ NKT22NA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	岩岡 夏子	時間数	30
成績評価教員	岩岡 夏子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。
全体の内容と概要	日本語能力試験N2の文法と語彙を学んでいく
授業時間外の学修	新出語彙の意味調べ・既習事項の復習
履修上の注意事項等	JLPT合格に向けて意欲的に授業に取り組むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	試験の傾向がわかる	語彙・文法ともに、試験概要・時間把握・模擬試験
2	自分の困った状況や気持ち 説明できる・人を励ますことができる	文法（ばかりに、ものか、というものだ） 語彙（第1回）
3	自分の状況や決意したことを話せる ①	文法（ばこと、ないことはない、わけにはいかない） 語彙（第2回）
4	自分の状況や決意したことを話せる ②	文法（のみ、まとめ問題） 語彙（第3回）
5	これまでの経緯や状況の 説明ができる①	文法（からみると、一方で、ことから） 語彙（第4回）
6	これまでの経緯や状況の 説明ができる②	文法（のみならず、といった、にしたがって） 語彙（第5回）
7	試験の傾向を知る	模擬試験
8	試験の傾向を知る	模擬試験、フィードバック
9	試験の傾向を知る	フィードバック
10	レポートや論説文の説明ができる ①	文法（得る、に反して、に関して） 語彙（第6回）
11	レポートや論説文の説明ができる ②	文法（反面、理論上は、つつある） 語彙（第7回）
12	レポートや論説文の説明ができる ③	文法（に限らず、まとめの問題） 語彙（第8回）
13	ビジネスの場面で社外の人との やりとりができる	文法（敬語、につきましては、まとめ問題） 語彙（第9回）
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY！日本語応力試験N2 ドリル&ドリルN2文字語彙
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語コミュニケーションⅣ		（ NKT22N ）
講義名（コード）	日本語コミュニケーションⅣ B		（ NKT22NB ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	江島 香菜子	時間数	30
成績評価教員	江島 香菜子	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネス会話レベルの日本語能力の習得
全体の内容と概要	CEFR C2レベルの日本語の読解・聴解の学習
授業時間外の学修	日常生活で意識して使う
履修上の注意事項等	資格試験に申し込むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	読) ほかの言葉で言い換えることができるようになる1 聴) 課題理解ができるようになる3	読) 「言い換え」られている言葉を見つける(例題2.練習5.6) 聴) 条件を整理しながら聞く (例題3/練習3/確認問題)
2	読) ほかの言葉で言い換えることができるようになる2 聴) ポイント理解ができるようになる1	読) 「言い換え」られている言葉を見つける(練習7.8.9.10) 聴) 話し手の意図を考え、情報を判断する(例題1/練習1)
3	読) 比喩を見つけることができるようになる1 聴) ポイント理解ができるようになる2	読) 比喩を見つけて理解する(例題3.練習11.12) 聴) 言い換えに注意する(例題2/練習2)
4	読) 比喩を見つけることができるようになる2 聴) ポイント理解ができるようになる3	読) 比喩を見つけて理解する(練習13.14) 聴) 多くの情報の中から必要な情報を拾う(例題3/練習3/確認問題)
5	読) 疑問文を手掛かりに、論点をつかむことができるようになる1 聴) 概要理解ができるようになる1	読) 疑問文に注目して、論点を見つける(例題4.練習15.16) 聴) 言葉を聞き分けて、話題をつかむ(例題1/例題2)
6	読) 疑問文を手掛かりに、論点をつかむことができるようになる2 指示語が指す内容を読み取ることができるようになる1	読) 疑問文に注目して、論点を見つける(練習17)/指示語を正しく読み取る(例題5.6) 聴) 話の構造をつかむ(例題2.練習2)
7	読) 指示語が指す内容を読み取ることができるようになる2 聴) 概要理解ができるようになる3	読) 指示語を正しく読み取る(練習18.19.20.21)]¥ 聴) 話の主題をまとめる(例題3/練習3)
8	読) 主語を読み取ることができるようになる1 聴) 概要理解ができるようになる4	読) 主語や対象を探す(例題7.練習22.23.24) 聴) 表現を手がかりに意見や主張を聞き取る(例題4/練習4)
9	読) 主語を読み取ることができるようになる2 聴) 概要理解ができるようになる5	読) 主語や対象を探す(例題7.練習25)前後の文章から、下線部の内容を読み取る(例題8.練習26.27) 聴) 表現を手がかりに意図を考える(例題5/確認問題)
10	読) 主語を読み取ることができるようになる3 聴) 統合理解ができるようになる1	読) 前後の文章から、下線部の内容を読み取る(練習28.29.30.31) 聴) 話を整理する(例題1/練習1)
11	読) 「理由を示す」表現を探すことができるようになる 聴) 統合理解ができるようになる2	読) 理由を読み取る (例題9.例題10.練習32) 聴) 2種類の話の話を整理する(例題2/練習2)
12	読) 「理由を示す」表現を探すことができるようになる 聴) 模擬試験1	読) 理由を読み取る (練習33.34.35) 聴) 問題1
13	読) 例を選択することができるようになる 聴) 模擬試験2	読) 正しい例を選ぶ(例題11.練習36.37.38) 聴) 問題2
14	前期のまとめ	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	【読解】完全マスターN1 【聴解】完全マスターN1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語資格対策Ⅳ		（ NKT22P ）
講義名（コード）	日本語資格対策Ⅳ		（ NKT22PB ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	田中 清夫	時間数	30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	適切な言い回しを学ぶことで語彙力と文法の知識を獲得し資格試験取得を実現する
全体の内容と概要	語彙については、テスト形式で実践的に習得する。文法については、形式と用法を用例を通じて習得する
授業時間外の学修	実力向上には特に復習が重要
履修上の注意事項等	JLPT合格に向けて意欲的に授業に取り組むこと

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	雑誌やインターネットなどの紹介記事を読んで理解できるようになる①	文法については「・・・に他ならない」「・・・に過ぎなかった」「・・・上(に)」の用法を習得する。文字・語彙については語形成第1回から3回の問題を解く
2	雑誌やインターネットなどの紹介記事を読んで理解できるようになる②	文法については「・・・と言っても」「・・・に限る」「・・・だけあって」の用法を習得する。文字・語彙については語形成第4回から6回の問題を解く
3	実践的な問題を解くことができる	文法については「・・・にひつ」「・・・にひつ」の用法を習得する。第10章のまとめの問題を解く。文字・語彙については語形成第7回から10回の問題を解く
4	会議で説明したり意見を言うことができるようになる①	文法については会議の文脈を理解できる。また「・・・とか」「・・・に沿って」「・・・にかけては」の用法を習得する。文字・語彙については文脈規定第1回から3回の問題を解く
5	会議で説明したり意見を言うことができるようになる②	文法については「・・・とか」「・・・に沿って」「・・・にかけては」の用法を習得する。文字・語彙については文脈規定第4回から6回の問題を解く
6	会議で説明したり意見を言うことができるようになる③	文法については「・・・ないことには」「・・・がち」「・・・つつも」の用法を習得する。文字・語彙については文脈規定第7回から9回の問題を解く
7	実践的な問題を解くことができる①	文法については「・・・としたり」「・・・次第で」「・・・が・・・」の用法を習得する。文字・語彙については文脈規定第10回から12回の問題を解く
8	実践的な問題を解くことができる②	文法については「・・・元立って」「・・・上(に)」「・・・にこたえた」の用法を習得する。まとめ問題を解く。文字・語彙については第19回の問題を解く
9	実践的な問題を解くことができる③	文法については12章のまとめの問題を解く。文字・語彙については文脈規定第13回から15回の問題を解く
10	ストーリーの展開を追って読める	文法については「・・・たことにする」「・・・つもり」「・・・でなっていた」の用法を習得する。文字・語彙については言い換え類語第1回から3回の問題を解く
11	登場人物の心情が理解できる	文法については「・・・ものなり」「・・・つか」「・・・まいか」「・・・うえ」の用法を習得する。文字・語彙については言い換える意義第4回から6回の問題を解く
12	実践的な問題を解くことができる	文法については「たことえ」「・・・かたい」「・・・づめる」「・・・も構わず」の用法を習得する。文字・語彙については言い換える意義第7回から10回の問題を解く
13	後期のまとめと解説	第13章のまとめ問題を解く。試験前のまとめ
14	後期のまとめと解説	期末試験
15	後期のまとめと解説	期末試験のフィードバックを通じて勉強したことの確認をする

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	TRY文法から伸ばす日本語日本語能力試験N2 日本語パワードリルN2文字・語彙,ドリル&ドリルN2文字・語彙、短期合格N1N2語彙
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	貿易商務論Ⅱ		（ NGB22D ）
講義名（コード）	貿易商務論Ⅱ		（ NGB22DX ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	2学年
対象コース	グローバルビジネスコース	単位数	2
授業担当者	田中 清夫	時間数	30
成績評価教員	田中 清夫	講義期間	秋学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	海外との取引を行う会社で、輸出入を担当する為に必要な基本的な知識を身につける
全体の内容と概要	実際の輸出入取引を理解し、貿易実務検定資格受験レベルの知識を身につける
授業時間外の学修	特に貿易用語について、理解し使えるように復習をすること
履修上の注意事項等	授業では、グループ学習も行うので、積極的な参加が必要

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	春学期授業の復習と秋学期授業の説明が理解できる	春学期に使った貿易用語を復習する。秋学期は、貿易実務、貿易英語、実務検定問題の勉強を毎回行う
2	貿易の流れが説明できる	貿易関係者と流れを図示する。色々な貿易取引を説明する。取引条件と必要な英単語を説明する。問題演習。貿易英文読解
3	信用状の実務が説明できる	信用状と関係者について復習。問題演習。貿易英文読解
4	貿易書類と手続きが説明できる	貿易の流れと必要書類を確認する。問題演習。
5	貿易法務が説明できる	貿易契約とインコタームズについて確認する。問題演習。
6	外国為替と代金決済が説明できる	外国為替レートの復習と関連事項の説明。問題演習。貿易英文読解
7	海上保険と貿易保険が説明できる	海上保険の内容を復習。問題演習、貿易英文読解
8	貿易クレーム対応が説明できる	貿易クレーム説明。問題演習。貿易英文読解
9	貿易と環境条件が説明できる	貿易に関連する国際条約の説明。問題演習。貿易英文読解
10	貿易経済知識が説明できる	世界の貿易に関する経済用語の説明。問題演習。貿易英文読解
11	通関知識が説明できる	通関用語の説明。問題演習。
12	貿易運送が説明できる	海上運送等の特殊用語の説明。問題演習、貿易英文読解
13	マーケティングが説明できる	貿易のマーケティングの復習。問題演習。貿易英文読解
14	テスト	総合テスト
15	フィードバック	講評

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「めざせ貿易実務検定」「貿易の仕組み」
参考文献・資料等	必要な資料は適宜配布
備考	なし